

## 2018 年度 U13/U18 ブロック DC について

### 【趣旨】

- これまでの伝達/発掘の観点を変更し、「発掘」重視とした。
- 都道府県育成センターが開始されるにあたり、「タレント発掘（選手選考）方法論」のモデルを提示することとした。
- タレント発掘の視点を提供し、議論を深める材料として頂くこととした。

### 【ブロック DC 実施方法論】

方法	目的	内容
フィジカル測定	身体計測により形態的特徴、瞬発系能力を中心とした運動能力の指標を得る	身長、体重、指高、ウイングスパン 20mスプリント、垂直跳び、レーンアジリティ、立ち幅跳び、チェストパス
コーディネーション	個人のコーディネーション能力の情報を得る	コーディネーションドリル ※時間に余裕があれば実施
スキル	個人のスキルの特徴情報を得る	シューティングテスト、1対1 リバウンドドリル
バスケIQ	個人の戦術的理解力の情報を得る	U13：ドライブ&キック、スペーシング U16/17：代表のエントリープレー
トランジション	速い攻防の中での状況判断、スキル発揮能力の情報を得る	2対1～2対2、3対2～3対3
総合	ゲーム能力の情報を得る	指導された戦術を用いてのスクリメージ (3対3, 4対4, 5対5)

### 【選考会議】

- 実施後、選考会議を実施する。
- 出席者は連絡事項に記載の通りであるのでご確認頂きたい。
- U13 はリストアップし、ジュニアオールスターの際に取りまとめ、U14 ナショナル育成センター選手選考(トライアウト受験有資格者)の材料とする(決定ではない)。
- U16/17 はリストアップし、U16/18 代表への参考情報とする。
- どの世代においても観点は「候補 30 名にあげられるレベル」であり、各県の普及の観点ではないことにご留意頂きたい。具体的には各県 1 名の選出を必ず実施するわけではなく、選手レベルを見極め将来に繋がる選手の発掘をお願いしたい。
- 「選手選考を行う際の視点」を参考とされながら会議体にて議論して頂きたい。
- 2019 年度からはブロック DC が廃止となり、都道府県から「候補 30 名にあげられるレベル」を見極めることが求められる。都道府県ユース育成コーチが都道府県内で選考の方法論について説明する必要があり、今回の取り組みを参考として頂きたい。

【選考におけるこれまでの問題点】

- ・ 早熟系の発掘が多く行われている傾向があること（専門家によるデータ分析を実施し得られたもの）
- ・ 晩熟でまだパフォーマンスが高くない選手が落とされていること

【これからのタレントスカウティングについて】

- ・ 別資料「選手選考を行う際の視点を考える」を参考にして頂きたい。
- ・ U13 と U16/17 で少し視点が異なる。PHV（身長伸びが最大になる時期）が始まってくるU13 と多くが終わりを迎えつつあるU16/17 の違いである。
- ・ 身長は「今」ではなく「将来予測身長」を考える。
- ・ バasketボールにおける運動能力は瞬発系能力が重要であり、小さい頃からその特徴は見られる。
- ・ 技術は経験年数、運動学習能力、その選手の年齢（トップまで何年残されているか）を総合的に見ながら評価する視点も重要である。

【ブロック DC での実施例】 順序は適時入れ換えて頂いても構わない

初日 180 分

- ・ 開講式
- ・ ウォーミングアップ（10～15）
- ・ フィジカル測定（50～60）
- ・ コーディネーションテスト（10）
- ・ スキルテスト（シューティングテスト、1対1、リバウンド）（30～40）
- ・ トランジションドリル（2対1～2対2, 3対2～3対3）（20）
- ・ プレー指導（U13：ドライブ&キック）（U16/17：戦術指導）（30）
- ・ 3対3, 4対4など必要に応じて（20）
- ・ 5対5スクリメージ（20）
- ・ クーリングダウン

2日目 60～90分の指導、60分のスクリメージ

- ・ ウォーミングアップ（スキル系やコーディネーションが望ましい）（15～20）
- ・ トランジションドリル（2対1～2対2, 3対2～3対3）（20）
- ・ スキル（1対1、リバウンドドリル）※必要に応じて、カットしても良い
- ・ 前日指導したプレー復習（15～20）
- ・ 3対3, 4対4など（15）
- ・ 5対5スクリメージ（60）7点先取、3～4分ゲームなど待ち時間が長くなりすぎないように配慮する
- ・ クーリングダウン
- ・ 閉講式

**【指導者講習会：ユース育成コーチ向け】 60分程度**

- ・ 技術委員会で課題となっている事項等を伝達する。
- ・ 男子強化、女子強化で取り上げられた課題を共有し、都道府県育成センターにて選手・指導者に展開して頂きたい。

**【マネージャー会議：ユース育成マネージャー向け】 120分程度、事業実施と平行して行う**

- ・ 都道府県ユース育成マネージャーに対して都道府県育成センターの準備状況、実施における課題を共有する。
- ・ 都道府県協会とユース育成組織の連携がうまくいっているか、ブロック協会との連携など、組織的な課題について確認をする。

**【審判講習】**

- ・ ゼロステップ、アンスポーツマンライクファウルについて伝達用映像を用いて講習を実施する。30分程度でお願いしている。

**【栄養講習】**

- ・ U18のみ必須とし、U13は希望ブロックで実施する。30分程度でお願いしている。

**★ 資料について**

- ・ 映像資料、文書資料を配付する。
- ・ 文書・映像資料はJBA ホームページ/選手育成/ブロック育成センターにおく。

以上

<問い合わせ先>

公益財団法人日本バスケットボール協会  
基盤強化グループ育成普及担当 山本・佐藤  
ユース育成：[jba-youth@basketball.or.jp](mailto:jba-youth@basketball.or.jp)

TEL：03-4415-2020

FAX：03-4415-2021